

令和6年度第1回大阪府環境放射線評価会議 議事録

日時：令和6年8月6日（火）15：00～16：15

場所：大阪府災害対策本部会議室（新別館北館1階）

1. 開会

○事務局（司会）：※進行を説明

○事務局（城田課長）：※開会の挨拶

○事務局（司会）：※進行を説明

2. 議事

（1）委員長の選任について

○事務局（司会）：※進行を説明

○事務局（司会）：令和6年3月31日をもちまして、名古屋大学大学院の山澤委員長が辞任されましたので、後任として福島大学環境放射能研究所の平尾委員にご就任いただいております。

○事務局（司会）：※進行を説明

○事務局（司会）：議題1の大阪府環境放射線評価会議の委員長の選任について、

○小川委員：ご参加されている村田教授が環境エネルギー工学の専門のスペシャリストであり、原子力・核融合を含めた安全管理・研究教育を幅広く推進されている方であるので、村田先生を委員長に推薦したいと考えています。

○事務局（司会）：皆様、いかがでしょうか。

※異議なし

○事務局（司会）：では、村田先生お引き受けいただけますでしょうか。

○村田委員長：はい、ご推薦いただきありがとうございます。どうぞよろしく願います。

○事務局（司会）：では村田委員、委員長席にお移りくださいませ。

○事務局（司会）：これからの議事については、村田委員長にお願いしたいと思います。

(2) 令和5年度環境放射線監視結果について

○村田委員長：次第に従って進めたいと思います。議事2である「令和5年度環境放射線監視結果について」事務局 説明をお願いします。

○事務局：※令和5年度環境放射線監視結果について説明

令和5年度の監視結果の概要は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いたします。

○青野委員：13ページでは大気浮遊じん中の、それから16ページには排水中のセシウムの量が表示されていますが、検出下限値以下という表記は問題ありませんが、例えば16ページであれば1.71という数値があるので、その下に括弧書きで、検出下限値がどれぐらいとかっていうものを示していただければ、一般の方が見た時に、この出ている数値が検出下限値よりもどの程度高いものか分かることで安心材料になると思うので、ご検討いただければと思います。

○事務局：セシウム137の分析の場合は、検出目標値は設定しています。ただ、検出下限値は分析の都度変化するので、大まかな数値は記載できますが、検出目標値を記載するべきか、検出下限値はこれぐらいですと記載するべきか、判断に迷うところがあるので、検討して、どちらの方法で記載するかを考えたいと思います。

○青野委員：よろしくお願いたします。

○村田委員長：これはLTDかなにかで判断したものでしょうか。

○事務局：ブランク値の標準偏差の3倍を検出限界値と設定している分析機関が多いようです。

○村田委員長：先程おっしゃった17核種はどこかに記載あるのでしょうか。

○事務局：年報の24ページに記載されております。

○村田委員長：この17核種は本文のどこかを参照しているのでしょうか。

○事務局：これは2002年に環境放射線監視が始まった頃に設定されたもので、なぜこの17核種を選んだのかという根拠は把握していません。

○村田委員長：この17核種をどこかに記載できれば良いのだが。記載できないなら仕

方ない。私は問題ないと思うが、これは根拠が分からないという認識で良いか。

○事務局：そのとおりです。また、先程の質問において、検出目標値は、スライド13ページの大気浮遊じん中のセシウムで0.08mBq/m³で、16ページの排水中のセシウム137濃度に関しては、目標値は8mBq/Lになっております。

○事務局：今ご説明させてもらった検出目標値は、年報の46ページに一覧表という形で記載されています。

○村田委員長：スライドに検出目標値を記載することは可能でしょうか。

○事務局：可能です。

○村田委員長：17核種はこのままで良いと思うが、分かるのであれば、用語集に記載しても良いと思う。今の17核種について私は若干の違和感を感じます。

○事務局：経過を調べて、分かれば記載します。

○村田委員長：9ページの全 α 、全 β 濃度のピークの山は毎年こうなっていましたか。

○事務局：概ね毎年同じで、地形的な特徴で、東大阪地域が盆地でこの季節は空気が滞留しやすく、濃度が上がりやすいと整理させてもらっている。

○村田委員長：承知した。こちらで公表をお願いします。

○事務局：承知しました。ありがとうございます。

(3) 令和5年度放射線管理等報告書について

○村田委員長：議事3について3つの事業所の方に報告をお願いします。

○京都大学：※令和5年度放射線管理等報告書について説明

○近畿大学：※令和5年度放射線管理等報告書について説明

○原子力燃料工業（株）：※令和5年度放射線管理等報告書について説明

○村田委員長：ご説明ありがとうございます。ご質問等ありましたら、お願いします。

○村田委員長：最初に京都大学の報告で、アルゴンが4月から6月が出てないのはなぜですか。

○京都大学：その期間は運転しておりません。

○村田委員長：承知しました。

○村田委員長：近畿大学で、排水濃度が7月から9月が高い理由は。

○近畿大学：排水を放出したのが、7月から9月でして、この時の値が高いわけではなくて、その他は排水放出の実績がなかったため値の記載がないです。記載している濃度は実測値だが、これはその濃度レベルからも自然起因に由来するものと推定され、濃度限度を十分に下回っているものとして排水しています。

○平尾委員：原燃工の資料で、検出限界未満値の β や α が記載されていないが、どの核種、線種の検出限界値なのでしょう。

○原子力燃料工業（株）：われわれの事業所は取り扱っているものは α 線のものです。

○平尾委員：それであれば、まぎれのない様にそう書くのがよろしいかと思えます。

○原子力燃料工業（株）：府と協議したいと思えます。

○村田委員長：排気口1と2の大きな違いは。

○原子力燃料工業（株）：規模や取り扱っているものが違います。排気口1はウラン加工のメインのプラントで、ウランが多く含まれているものを扱っている。排気口2は放射性廃棄物を扱っているところ。排気口1の方が放射性物質が圧倒的に多いという違いがあります。

（4）各原子力事業所における近況等について

○村田委員長：議事4について3つの事業所の方に報告をお願いします。

○京都大学：※各原子力事業所における近況等について説明

○近畿大学：※各原子力事業所における近況等について説明

○原子力燃料工業（株）：※各原子力事業所における近況等について説明

○村田委員長：ご説明ありがとうございます。ご質問等ありましたら、お願いします。

○原子力規制庁：京都大学の KUCL の出力は 100kw と記載あるが、100w の間違いではないでしょうか。

○京都大学：確認いたします。

○村田委員長：藤川先生 最近漏水があって、運転は停止されているのでしょうか。

○京都大学：現在は、原子力規制庁とお話しして対策をしつつ、早ければ8月19日に通水炉心というものを作りまして、特性運転をできるのかと話しています。

○村田委員長：外部の方がもうしばらく使えないという認識でしょうか。

○京都大学：それは原子力規制庁との兼ね合いもあるが、8月19日の特性運転をして、その時に2次冷却水の漏れがないかを確認して、徐々に決めます。

○村田委員長：漏れた水はきれいなものなのでしょうか。

○京都大学：はい、いずれも綺麗であると判明しています。

○村田委員長：承知いたしました。

○松浦委員：原燃工のことにに関して、工場の見学でトラブルの説明もありすごく分かりやすかったが、ただ溜まっていたウランの量がすごく多い。例えば、1日に処理しているウランの量がこれぐらいであって、その内少しずつ溜まってこれぐらいの量になったという説明があれば良かったのかなと思う。

○村田委員長：これは30年ぐらいとおっしゃっていましたっけ。

○原子力燃料工業（株）：この建屋が1990年代に作られたので、大体30年使っていた。ウランの取扱量としては年間180トンぐらい。それが数グラムでも徐々に溜まっていく。ダクトにここまで溜まっているという認識がなかったのは、考えが甘かったのかなと思います。

○村田委員長：ウランの取扱量が多いので、少しずつ30年間で溜まったということか。

○原子力燃料工業（株）：30年という間で加工場の中でもロスがあり、廃棄物に混ざって、手袋に付いたりする等のロスがキロ単位で徐々に溜まり、発生しています。

○村田委員長：これは天然ですか。

○原子力燃料工業（株）：5%以下の濃縮ウランです。

○村田委員長：濃縮度が違うものも混じっているのでしょうか。

○原子力燃料工業（株）：4%台でいくつかの種類は混じっています。

○村田委員長：他質問ありますでしょうか。

○村田委員長：なければ、こちらで終了でよろしいでしょうか。

○事務局（司会）：※今後の予定について説明

○事務局（司会）：以上で本日の会議を終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。